磐城民論

發行日毎月廿日
定價　一部十錢
廣告料　一行五十錢
場所指定十錢增

發行兼編輯人印刷人　酒谷四郎
福島縣石城郡平町杉平二十番地
發行所　磐城民論社

藥の御用は
山野邊藥局へ
平町五丁目角

世の中を紊すここにある

酒谷磐泉

始末に困る程の財もありそして堂々たる邸宅を構ひ自ら政治家と任じ實業家と誇り威風堂々と活歩し何の不自由のない者が巧みに錦の袖に隠れ表面紳士然として罪悪非道を敢いて意とせず社界を毒し其の正体を暴露する如き不逞のものが世にありとせばそは天人共に容れざる罪悪を犯す者と云ふべし世を紊す根城はこゝにあり一層不景氣の製造元も茲にあるのだ見よ此の底知れぬ不況の爲めに戰々競々として一腕の飯に窮し路傍に倒るゝ如き實に同情に忍びないものでも道念を脱せず人として爲す可からざる不純の行爲を避けるは常である諸君活眼を開いて社界の實相を觀よ

根城は

菅の澤道路開鑿の恩人に記念碑建設

櫻花爛漫の候に除幕式

發起人は　木澤常松氏外廿名

平町研古町から久保町を經て好間村に通ずる菅の澤道路は今より四十八年前に開鑿されたもので其の當時は長坂を迂回眞に不便極りなきを當町鹽屋の先代山崎與三郎氏外左記の人々に依り發起され幾多の困難と勢力を費し遂に今日の如き道路を開拓されたのである

此の偉大なる恩惠を後毘に傳ふべく七百圓の豫算を以つて記念碑を建設し來る四月の候に除幕式を擧行の由であるが當時の發起人並に記念建設趣旨書は左に

開鑿發起人は

先代山崎與三郎、志賀竹次郎、佐々木佐太郎、端山正男氏嚴父、神谷辰五郎氏嚴父(以上故人)綿引秀親氏叔父長谷部、吉村喜代治の七氏

菅ノ澤道路開鑿記念碑建設趣意書

輓近世運ノ進展ニ從ヒ道路モ亦大ニ發達シ交通至便ヲ見ルニ至リ昔時險惡ニシテ人馬モ容易ニ通スル能ハサリシ時代ヲ追想スル時ハ轉タ隔世ノ感ナキ能ハズ

茲ニ平町ヨリ好間村ニ通スル道路ハ元長坂ヲ迂回シ久保町ノ峻坂ヲ往來シタルヲ以テ時人大ニ其ノ不便ニ苦ム會々研古組ノ有志某々等發起トナリ之レガ換線ヲ企テ菅ノ澤道路開鑿ヲ計劃シ官廳ニ認可申請ヲナシタルモ客易ニ採可ノ運ヒニ至ラザリキ、明治十七年ニ至リ漸クニシテ其認可ヲ得タリシカハ同年十一月工ヲ起シ工費ハ官廳ノ補助ヲ仰ガザリシハ勿論只地方關係方部ノ寄附ヲ受ケタルニ止マレリ、時偶々財界ノ不況ニ遭ヒ寄附ノ募集意ノ如クナラズ加ワルニ堀割ノ難工事ニ出會ヒ甚シク豫算ノ超過ヲ來シ一時工事ヲ中止スルノ已ムナキニ陷リシモ發起者等粒々辛苦シテ資金募集ニ勉メ漸ク工事ヲ繼續シテ翌年九月辛ジテ竣工ヲ告ケ同月廿二日簡素ナル開通式ヲ擧行シタリト云フ

爾來交通益々頻繁ニシテ至大ノ便利ニ浴ス之レ寔ニ其當時發起者諸君ノ苦心努力ノ賜ニシテ地方文化ニ貢献シタル功勞ハ實ニ沒スベカラズ、今ヤ開通後物變リ星移リ殆ント五十年ノ久シキニ及ビ自然其時ノ發起者ノ功績ハ遂ニ煙滅ニ歸センコトヲ遺憾トシ茲ニ發起者相謀リ各位ノ御賛助ヲ得以テ菅ノ澤道路開鑿記念碑ヲ建設シ以テ其事績ヲ後代ニ傳ヘントス冀クハ應分ノ御寄附アラン事ヲ

追白

其當時道路開鑿費ノ内ヘ御寄附セラレ其筋ヨリ表彰狀又ハ感謝狀等ヲ受ケラレシ御所有ノ方ハ設立委員長迄御申出テ相成度

昭和六年二月

建碑設計費概算

金七百圓也　總工事費

内譯

金壹百參拾圓也

仙臺石(高八尺五寸　幅三尺八寸)　金壹百七拾圓也

臺石及基礎工事費　金臺百五拾圓也

石工作料　金八拾圓也

篆刻及選文料　金五拾圓也

諸雜費　金壹百貳拾圓也

除幕式ノ豫算　以上

發起人

平町研町古鍛冶町區長　木澤常松
同代理　淺井忠市
屋島廉輔
白土勝治
佐々木節次郎
佐々木喜平
橋本午吉
菅野永太郎
佐藤繁次
永山富廣
大谷要次郎
白土正藏
小野定七
久保木林之助
研町古鍛冶町青年分團代表　磯貝豊
久保町　永山和平
永山義太郎
久保町區長　會川延太郎
同代理　古田部春吉
青木榮吉
荒川恒次郎
久保町青年分團代表　遠藤忠治
同
同
久保木林之助
同
會計
平町研町　佐々木節次郎
佐々木喜平
同　屋島廉輔
同　白土正藏
同　永山富廣
同　菅野永太郎
同　久保木林之助
會計
平古鍛冶町　山崎清三
同　神谷亥三雄
平町研町　吉村安次郎
長橋町區長　川角兼吉
材木町區長　長瀬富彌
紺屋町區長　馬目玉彌
一丁目區長　渡邊貫一
搔槌小路區長　廣木榮之助
二丁目區長　山崎孝之助
三丁目區長　梅原利三郎
田町區長　平澤勝次郎
鍛冶町區長　酒井政之助
胡麻澤區長　赤塚勇吉
城山區長　伊藤重善
白銀町區長　吉田喜代治
四丁目區長　松本愛三
新川町區長　長小次郎
南町區長　齊藤寅吉
良善寺住職　柳内悅巖
松堂院住職　宍戸正勝
菩提院住職　桐原英純
明賢寺住職　藤内祐信
大寶寺住職　小林智興
九品寺住職　遠藤心光
先景寺住職　國田德應
天理教磐城分教會長　平澤信通

建碑設立委員長

平町研町　佐々木節次郎
佐々木喜平
同　屋島廉輔
同　白土正藏
同　永山富廣
同　菅野永太郎
同　久保木林之助
平古鍛冶町　山崎清三
同　神谷亥三雄
平町研町　吉村安次郎

俳句

武門

◇飛び込みし波紋の中の蛙哉

◇山門を入れ山吹き盛り哉

◇橋請負する川添の濃山吹

◇赤々と佛壇灯る彼岸かな

◇言負けて庭の木の芽を手切りけり

童謡

あめ

あめがだん〳〵
ふつてきた
そのうへ風も
ふき出した
あめがふつては
こまります
どうしておうちへ
かへませう
きしや
ビョム〳〵〳〵と
なせなくの
おなかがいたいと
ないてます
あまりせきたん
たべすぎて
おなかがいたいと
ないてます
とり
とりがとりが
なき出した
おまへのこゑで
よがあけた
とりがとりが
ないてゐる
おまへのこゑで
みなおきた

薄葉自動車部
乘合、貸切
綴驛前

江名町長
河野嘉藏
外吏員一同

五十嵐炭礦
不動澤鑛業所

磐城炭礦株式會社

内郷牛乳舍

米穀商
長瀨富彌
平町材木町

三二三屋肉店
平田町電話三二三番

御料理仕出し
藤よし
平町警察署通り（電話一六六番）

鰹節、蒲鉾製造
折詰類、仕出し
藤市蒲鉾店
遠藤市松
平町二丁目（電話三〇五番）

簡易食堂
折詰仕出し
魚清
平町二丁目（電話六二三番）

第廿五回 生徒募集
一、卒業は産婆看護婦科を通じて一ケ年
一、入學資格　高等小學卒業又ハ同等以上の學力ある者へ無試驗入學を許す
一、申込期日　四月八日迄
平南町
電話三〇七番
産婆看護婦學校
校長　清野キヨ

磐城佑賢學舍生徒募集
一本科入學資格　高等科卒業程度の男女
一普通科　尋常科卒業程度以上の男
一新設農蠶科　高等科卒業程度の男女
一、右各科共に入學試驗は行はず願書受付順に入學を許可す
一、新學期開始　四月六日
一、詳細は規則書請求のこと
昭和六年三月
平町六間門廿番地（電話九三番）
磐城佑賢學舍

平町紺屋町
電話六八番
吉田眼科病院

和洋銅鐵金物問屋
磐城セメント株式會社特約代理店
釜屋商店
平町五丁目
電話九番九九番

第廿三回 産婆看護婦生徒募集
一卒業年限　兩科ヲ通ジテ一ケ年
一入學資格　高等小學卒業又ハ同等以上ノ學力有ル者ヘ無試驗入學ヲ許ス
一申込期間　四月八日迄
平町一丁目（電話三五七番）
石城産科婦看護婦學校
校長　鷹崎千代

醫院開業
私儀今般左記場所に醫院を開業一般診察に從事致すべく候
平町新川端（釜屋新宅向）
難波醫院
醫學博士　難波睦
電話五〇二番
内科一般（午前宅診（午前九時より）午後往診　但し急患は此限りに非ず）

文部大臣認可
平陽女學校入學案内
募集人員
本科師範科　二ケ年卒業　五十名
同技藝高等科　二ケ年卒業　五十名
同速成科　一ケ年卒業　三十名
同專攻科　一ケ年卒業　二十名
右各科共入學ヲ許シマス希望者ハ入學願書ニ履歴書ヲ添ヘ三月末日迄ニ提出シテ下サイ
入學願書ハ本校宛申越下サレバ差上マス
福島縣平町
平陽女學校
電話四四五番

合戸、澤渡行乘合開通
二月一日より（當分の内）片道八拾錢
◇平發　午前六時　十一時　四時半
◇下市萱發　八時半　一時半　六時
發着所
好間軌道自動車部　電話四二三番
三井自動車部　電話六八五番